



晴天の中、旭川荘子どもまつりが開催されました（8面に記事）

地震国の国民としての 自覚と行動を

理事長 末光 茂

東日本大地震から2年が経ちました。

旭川荘は、福島県双葉町から埼玉県加須市に避難している人たちの「心のケア支援」のお手伝いを、昨年の4月16日からこの3月15日まで続けてきました。派遣職員は21名（うち2回が2名）で、延べ223日。加須市を中心に埼玉県内ならびにつくば市内約280世帯の避難住宅を、「ふくしま心のケアセンター」の臨床心理士と一緒に訪問し、あわせてリフレッシュサロンや健康福祉課の業務の支援等に携わりました。

センターの職員からは、「ひとりで見えづ困惑していた時、旭川荘の支援のお陰で借上げ住宅の訪問を一緒に巡り、継続的な支援も行える状態になった」。町民からは「やつと震災の話をできるようになった」「聞いてくれてありがとう」など感謝の声をいただきました。

派遣職員の間からも「相談援助の貴重な実践の場が与えられた」「社会貢献ができた」との達成感があつた」という声が聞かれました。

この活動を含め、旭川荘の諸活動に対して、厚生労働大臣から感謝状が贈呈されるとの知らせも受けたところです。4月以降は場所を変え、会津若松市の「会津方部センター」の活動に協力することになりました。精神保健福祉士と社会福祉士を中心に4月15日から原則3週間交代で出かけます。

そのような中、4月13日に淡路島を震源とする震度6弱の強い地震が発生し、岡山県東部でも震度4が観測されました。まさに他人事ではありません。日本は地震国です。東日本大地震を忘れることなく、旭川荘ならではの支援を続けるとともに、身近な足元固めについても、危機感をもってより確かなものにならなければなりません。

平成25年度の主な新規事業

旭川市の平成25年度の新規事業のうち、主なものを紹介させていただきます。

○旭川荘療育・医療センター

新棟の一期工事が10月に完成し、歯科診療や給食配膳が新棟で始まるほか、屋内駐車場も使えるようになります。来年10月に二期工事が完成すれば、地域で生活している障害児・者の皆さんが、安心して医療が受けられるように外来が一元化され、入院機能（親子入院も含む）が強化されます。各種の相談支援を統合して、総合相談支援センターも併設されます。

○旭川荘真庭療育センター（仮称）

真庭市の旧湯原温泉病院の跡地に、平成26年度初めのオープンをめざして建設します。重症心身障害や知的障害のある人たちの日中活動のための通所施設です。真庭市は、愛育寮や児童院の設立の契機となった愛育委員活動の原点と言える地であり、旭川荘とは縁の深い土地柄です。発達障

害や高次脳機能障害に関する相談支援も併せて行い、療育・医療センターのプランチ（支所）としての役割も果たします。

○旭川学園

旭川学園は昭和32年に開設しましたが、現在の女子棟や男子棟はその時建設されたもので老朽化していることから、全面的な建替えに着手します。これを機に、住まいの場をユニット化し、家庭的でより快適な暮らしの場とします。また、旭川荘の最初の施設であることに因み、周辺は歴史・文化ゾーンとして整備します。完成は平成27年の春の予定です。

○旭川荘総合研究所

旭川荘は、創設から間もない時期に「児童福祉研究所」を設け、福祉の実践とともに研究活動にも力を入れてきました。昭和57年には「医療福祉研究所」と名称を改めましたが、それとアジア福祉文化研究センターを統合して、「旭川荘総合研究所」に発展的

に改組し、周辺分野を含めて総合的な研究を行うことになっています。その拠点をあかみや園の北側に建設中で、8月に完成の予定です。

○倉益地区の高齢者福祉拠点

岡山市倉益地区において、今年秋、整備に着手します。サービス付高齢者住宅を基本に、介護デイサービス、地域交流サロン等を整備します。高齢者住宅では、比較的自立した方から軽度の介護が必要な方まで、ホームヘルパーも利用しながら、安心して暮らせるようサポートします。地域交流サロンは、地域で暮らすお年寄りや学校帰りの子供たちが集う「世代を超えたふれあいの場」とします。平成26年夏、オープンの予定です。



建設中の旭川荘療育・医療センター（敷地右奥）

評議員会・理事会 報告

3月21日、岡山プラザホテルにて、平成24年度第3回評議員会・理事会を開催しました。

当日の会議においては、平成25年度事業計画、平成25年度資金収支予算や役員及び評議員の選任など10議案が審議され、いずれの案件も原案どおり承認されました。

新たに選任された理事、評議員及び退任の理事、評議員は次の方々と、他の理事、監事、評議員の方は再任されました。

理事	選任	近藤純五郎
	選任	宮長 雅人
	選任	片山 雅博
	選任	栃本一三郎
	退任	永島 旭
	退任	角南 重夫
評議員	選任	生本 晃久
	選任	井手紘一郎
	退任	生本 純一
	退任	栗山 志朗
	退任	片山 雅博

（敬称略）

平成25年度 主要人事

◇新任（平成25年4月1日付）
松浦 孝 ひらた支部支部長
松本好生 わかば青年寮寮長
（兼）みどりワークセンター所長

池田章朗 みどりワークセンター顧問

笠原佳子 ぎおんハイソ所長心得
檜尾 博 岡山障害者就業・生活支援センター所長

平岡文恵 旭川乳児院院長
土岐 覚 旭川乳児院顧問

渡邊憲明 事務局長（兼）資料館館長

板野宏一 ひらた支部副支部長（兼）ひらた旭川荘総括施設長

中倉隆巨 かえて寮寮長
安達悦子 備前支部副支部長
（兼）三世代交流センター結びの杜所長

小林由典 せとうち旭川荘所長
福江建二 くわのみどりの家所長

安東保夫 旭川荘真庭療育センター開設準備室室長

◇退職（平成25年3月31日付）
東原恒男 くわのみどりの家所長
野崎一正 せとうち旭川荘所長

川崎祐宣先生は、遙かな彼方へ目標を定め、グランドデザインをしっかりと描き、着実に実現された。志は大きく、先見性が目立つ人であった。

10年先、30年先が見えた人と言葉があてはまる人であった。新しい知見を得られると計画遂行の途中であつても大胆にその対応に取り入れグランドデザインをしっかりととしたものにされた。熟慮断行の方だった。海外視察もゆつくりと視点を定め重点的に見られ、必ず共に語る人を見られた。随行する機会を得た私もその都度、先生とふれあうレベルでなく「心のひびきあう」レベルの時間を過ごすことが出来た。

その結果、10年で総合病院である川崎病院の基盤づくり、次の10年間で新しい発想の総合医療福祉施設旭川荘をつくる、さらに次の10年間で第2次世界大戦終了後、最初の私立医科大学を創設、患者中心のきわめてユニークな医学教育を開始、やがて現代医学博

物館、わが国で初めての医療福祉大学とやつぎばやに創設された。これらは新時代への対応を着実にすすめられつつ、先生のグランドデザインの実現に向かう動きであつた。

次にその手法について述べてみよう。計画は大きく、緻密であつたが、その歩みは一歩一歩、確かなものであつた。その一つが「断ち物」をするひたむきさであつた。「断ち物」とは神仏に願かけをした時に、自分の好きな食物や嗜好などを断つて願かけその実現を強力にするという民間信仰である。お茶断ち、酒断ち、煙草断ちなどで神仏に自らの意思の固さを示し、その願いを達成しようとするもの。

長い時間これを続けることは困難で、途中で折角の願い事をも中断することが多いものだが、川崎先生はがんばり抜

かれた。自分の弱さを認めながらもこれに克つために、神仏に頼ろうとするいかにも人

は人に話すことによって、自分を強められたのであろう。いまどき「断ち物」をする



幼子とふれあう川崎祐宣先生＝旭川乳児院

人はそれほど多くはない。今日ではひたむきに生きるという生き方をする人が少なくなってきたからだろう。一度、目指した目標を中断する時、自分に対して、他人に対しても、いろいろと言いつくするものである。一筋に突き進むことが少なくなってきたように思われる。

ところが、川崎祐宣先生は常に、はるか彼方に目標を持ち、熟慮断行、目標を決めると、ひたすら休むことなく努力を続けられた。ある時はヘビースモーカーであつた先生が、この目標を達成するために「煙草断ち」されたこともあつた。これも喫煙の習慣を止めることが目的

間らしい努力であるが、そのひたむきさに心うたれるものである。先生はこれを実行して私などに口外された。これ

あつた先生が、この目標を達成するために「煙草断ち」されたこともあつた。これも喫煙の習慣を止めることが目的

ではなく、先生は事業の目的を達成するために、あえて煙草断ちをされたのである。そして見事に願を達成された。断ち物にかける情熱のいかに強かつたかを知ることが出来る。自分と神仏に誓うだけではなく、周囲の人々にもその覚悟のほどを示されたことも先生らしい。出会うすべてに「断ち物」をしては時間もないし、身体もたない。よくよく、グランドデザインを繰り返して検討し、その実現のために断ち物をされたのであろう。

人と人との関係を大切にする今日「寄り添う」という関係が注目されている。これは、お互いに快適な関係を維持するためにのぞましいものといえる。患者、高齢者に対する専門職の態度を説明する時にしばしば使用されている。川崎先生は「寄り添う関係」を患者には取りながら、志をもにする人々との間では「ひびきあう」関係を重視された。お互いに深い信頼がなければ成り立たないものである。「ひびきあう」とはどんなものか、折りをみて書いてみたい。

福島県被災者への支援活動の報告会

―一年間の活動を振り返って―

旭川荘では、昨年4月から「ふくしま心のケアセンター」の委託を受けて、福島県被災者の支援活動に取り組んでいます。

昨年度は、福島県双葉町民が避難している避難所（埼玉県加須市）に社会福祉士等の有職職員が2週間交代で応援に入り、借上げ住宅の訪問等を行ってきました。昨年9月1日号（第176号）では中間報告会の様子をお伝えしましたが、去る3月24日に一年間の活動を振り返る報告会が開催されましたので、その様子をお伝えします。

活動内容

福島県双葉町は福島第一原発に隣接し、警戒区域として町全体の立入りが制限されています。埼玉県加須市の避難所ではいまだ130人程度の町民が避難生活を送っており、埼玉県内には1,000人程度が借上げ住宅等での避難生活を送っています。避難所に設置されている町役場は、本年6月に福島県いわき市に移転することが決まりましたが、避難している方

々がいわき市に移住するかどうかの判断は、分かれています。

旭川荘職員は、「ふくしま心のケアセンター」職員の臨床心理士とペアを組み、双葉町健康福祉課の保健師等と連携しながら、借上げ住宅の訪問を中心とした業務を行ってきました。訪問した世帯数は、加須市内122世帯、埼玉県内（加須市外）106世帯、つくば市内50世帯以上に及び、概ね一巡目の訪問を終えました。また、町民へのアンケート調査など、双葉町健康福祉課の業務も随時支援してきました。

毎週火曜日には「ボランティア会議」に参加し、双葉町の健康福祉課や社会福祉協議会、ボランティア団体などの情報共有や、課題についての協議を行いました。避難所内外の町民を対象とした「リフレッシュサロン」の運営も手伝えました。

多くの成果

そのような活動の中で職員が得たものは何だったのか。各職員の声やアンケート調査をもと

に、みどりワークセンターの谷口博己支援課長が代表して報告を行いました。

―住民から「あんたらどこの人ね？」「原発の賠償の話ができる人間が来なければ意味がない」と開口一番言われることもあった。住民の話を聞いていても、「近所づきあいが見えなくなった」「震災後の自分の判断は正しかったのか悩んでしまう」「最初は避難先の住民から色々気遣ってもらえたが、今は逆に被災者であることを隠したい」など、悩みの声も多かった。しかし、「やっとな震災の話が出来るようになった」「聞いてくれてありがとう」などと感謝の声をかけられることも多くあった。

職員へのアンケートでは、回答者全員が「参加してよかった」としており、「相談援助の技術の貴重な実践の場を得られた」「社会貢献ができたという達成感があった」「周囲の人に福島県の被災者の現状を知ってもらえる機会になった」という声があった。一方で、「業務が滞留してしま

う」「不在時をフォローしてくれる同僚も、一緒に活動に参加しているという実感を持てるようになる」といった声もあった。そして業務上参加が困難な職員を除き「来年度も参加したい」と回答し、活動期間については「もっと長い方がいい」とした職員が最も多かった。定期的に開催してきた報告会により、施設を越えた職員同士の横のつながりも出来てきた。25年度も活動を継続する中で、定期的な報告会による情報共有や、職場への活動状況の周知、相談援助の技術の研修の実施など、さらに充実させていきたい。

現状を学ぶ

さらに報告会では、福島県の現状について理解を深めるため、家族が離散して大変な思いをしている県民たちの様子を伝えたテレビ番組を視聴しました。また、昨年4月に「東北粹」で旭川荘に採用された織田みなみさん（福島県郡山市出身）の話も聞きました。織田さんは、自らが大学生のときに被災した体験を語り、「避難している人だけを被災者だと捉えがちだが、避難者でない人や、同じ職場の職員の中にも被災者がいること

を忘れないでほしい。被災者同士では震災体験を話にくい雰囲気がある中で、県外の第三者に対してだからこそ話せることもある。冷たい対応をする人でも、実は話を聞いてほしいがつている場合もある。今後も私の故郷を支援して頂けるのは嬉しいし、自分も何らかの形で故郷への恩返しをしていきたい」と話しました。

今年度は会津若松で支援

本年4月からは、「ふくしま心のケアセンター」からの要請により、活動場所を福島県会津若松市に移しています。3人の看護師および1人の臨床心理士とともに、大熊町、楢葉町、双葉町、浪江町、南相馬市など様々な地域から避難してきている方々を対象として、仮設住宅でのサロン活動等を支援します。その状況についても、今後随時お伝えしていきます。



報告会の様子

厚生専門学院にクロイツァーゆかりのピアノ

52年製、天満屋葦川会館の開館時に演奏



厚生専門学院にあるクロイツァーゆかりのピアノ

旭川荘厚生専門学院のピアノが、戦後間もない1952（昭和27）年に国内で製造された希少な1台で、日本の音楽教育発展に貢献したピアニスト、レオニード・クロイツァー（メモ参照）が、翌53年に完成した天満屋のホール・葦川会館のこけら落とし公演のために自ら選定し、演奏したものであることが、このほど東京芸術大学の瀧井敬子特任教授の調査で明らかになりました。ピアノは5月から半年かけて修復を行い、今秋、東京と岡山で開催するコンサートでお披露目されます。



譜面台を外すとFCの刻印が現れる左中の54000が製造番号

このピアノはヤマハの前身である日本楽器製造がホール向けにつくったフルコンサー
トグランドピアノ「FC5400」。グランドピアノより一回り大きく、豊かな響きと力強い低音が特長です。「FC」は49年から、現行の「CFシリーズ」が出る67年までの間に製造されたモデルで、製造番号から23台目につくられたことが分かりました。60年を経た現在、同時期のものはほとんど廃棄され、現役は極めて珍しいそうです。

ピアノは53年10月の「葦川会館落成記念 クロイツァー独奏会」に合わせ天満屋が購入。瀧井特任教授が公演に関わった元社員らに聞き取り調査したところ、クロイツァーが新品の数台の中からこのピアノを選んだこと、信頼する調律師を呼んで公演に備えたこと、などの細部の情報が分かりました。クロイツァーは公演の約1カ月後に心筋梗塞で急逝。「クロイツァーが自分で選んで弾いた、まさに文化遺産とも言えるピアノ。没後60年の節目の年に出合えるなんて、とても幸運」と瀧井特任教授。

その後、葦川会館は催し場に改装され、ピアノは82年、旭川荘に寄贈され

ました。以来、同学院の卒業式・入学式で演奏されるなど、30年以上に渡って大切に受け継がれてきました。

瀧井特任教授は知人を通してクロイツァーが弾いたピアノが同学院にあることを知り、今年2月に専門の調律師とともに来荘。ピアノをチェックした日本ピアノ調律師協会常務理事の江森浩さんによると、一度修理した形跡はあるものの、元の美しい音色を取り戻すためには、アクション（打弦機構）を分解して摩耗した部品を交換したり、鍵盤を支えるクロスを張り替える必要があることが判明しました。

ピアノは5月から群馬県にある江森さんの工房で修復した後、10月に開催する同大学のイベント「芸大アーツ イン 東京丸の内」でお披露目する計画です。

ピアノが旭川荘に戻るのに合わせ、11月8日に荘内記念コンサートを開催。同大学大学院修士課程修了時にクロイツァー賞（メモ参照）を受賞した、ピアニスト川崎翔子さんが演奏する予定です。また、ピアノは同日の岡山大学医学部のホール落成記念コンサートにも、貸し出されることが決まっています。

瀧井特任教授らの調査に立ち会った旭川荘の板野美佐子常務理事は「これほど貴重なピアノだとは知らなかった。荘内コンサートでは利用者の皆さんにもクロイツァーが認めたピアノの音色を聴いていただきたい」と話しています。



鍵盤は象牙製
YAMAHAの文字が現在のものよりやや太め

メモ

■レオニード・クロイツァー (1884-1953年)

ロシア生まれのユダヤ系ピアニスト、指揮者。ベルリンフィルなどヨーロッパのメジャーオーケストラで活躍するが、ナチスによってドイツを追われ、37年から日本に定住。東京音楽学校（現在の東京芸術大学）教授を務め、多くのピアノ奏者を育てた。日本の音楽界、ピアノ教育の恩人といわれている。

■クロイツァー賞

門下生や関係者らでつくるクロイツァー記念会が、クロイツァーの功績を顕彰し1971年制定。毎年、東京芸術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院ピアノ専攻修了生の中から成績優秀者に贈られる。



子どもの高次脳機能障害について



旭川荘では岡山県から「高次脳機能障害支援普及事業」の実施委託を受け、川崎医科大学附属病院と連携して、高次脳機能障害の評価・診断・リハビリテーション・社会的支援を行っている。高次脳機能障害は事故による頭の損傷（けが）や脳出血・脳梗塞などの病気により、注意・記憶・思考・判断・他者との関わり方などに障害が表れ、その結果社会生活や日常生活がうまくできなくなったり、病気や事故の前には難なくできていた仕事ができなくなったりするものです。これまでは主に成人を対象に支援を行ってきましたが、脳の病気や損傷は子どもにも起こることなので、後遺症としての高次脳機能障害は子どもたちも支援の対象にすることが必要です。

子どもは病院から退院すると学校に戻ることになります（復学と言います）。ところが、復学すると「学校での勉強についていけない」「落ち着きがない」「約束を忘れる」「空気が読めず、友達とうまく遊べない」などで、勉強・遊び・友達付き合いなどいろいろな面で、病気や事故前と様子が違ってきます（表）。これらは、高次脳機能障害の症状である「記憶障害」「注意障害」や「社会的行動障害」が学校環境の中で表れたものです。

学校は大人の社会と大きく異なっています。45分（50分）ごとに科目が変わる。1年ごとにクラス替えがあつて友達や担任の先生が替わる。学期と長期の休みとがあるなど、環境がめまぐるしく変わるのが特徴です。また、子どもは大人と違って、障害につ

表 子どもの高次脳機能障害の症状

- ・ 友達との約束を忘れてたり、通い慣れた道を覚えられない。
- ・ 学校の成績が落ちた。
- ・ 気が散りやすい、落ち着きがない。
- ・ 疲れやすい、やる気がなくなった。
- ・ 思ったことを言葉にできない。
- ・ 簡単な計算ができない。
- ・ こだわりやすく、融通がきかない。
- ・ 周りの空気が読めない。
- ・ 年齢より幼くなった。
- ・ 友達とうまく遊べなくなった。



いての正確な知識に基づいて接することができません。病院から復学してきた友達が障害のために以前とは変化していることを理解できず、言葉のかけ方が不適切になってしまうこともあるでしょう。学校は守られている環境のように見えますが、実は大人社会よりも大変な面があると言えます。

子どもの高次脳機能障害を理解するために、旭川荘では平成24年度の療育アカデミーで「子どもの高次脳機能障害」講座を開催しました（学校法人旭川荘主催）。この講座を本年度も引き続き開催して、教育関係者を中心に、子どもの高次脳機能障害について広く知っていただく機会を作りたいと思っています。

発達障害の理解へパンフレット作成

岡山県内の発達障害への理解を深め、早期の対応に役立てていただくために、この程、山陽新聞社会事業団のご協力で、パンフレット「発達障害の理解と支援のために」を作成しました。パンフレットは発達障害と子育てをテーマに昨年6月に実施された「子育てキャラバン隊 in 旭川荘」の内容を中心に、また新たに旭川荘内の発達障害にかかる支援体制図を作成・紹介し、発達障害支援に携わる旭川荘内の支援機関（おかもま発達障害者支援センター、パンプの家、津島児童学院）の業務内容等も紹介しています。

パンフレットは岡山県内の27市町村の障害福祉課窓口配布しています。



障害のある人の 県庁アートギャラリー

旭川荘アートギャラリーでは、このたび岡山県の企画による「障害のある人の県庁アートギャラリー」に作品を出展することになりました。

この美術展は岡山県庁1階の県民ホールを会場に、障害のある人のアート作品を展示し、広く県民の皆様に鑑賞していただくことを目的にしています。

3月22日に行われた開会セレモニーでは、伯野春彦岡山県保健福祉部長と末光茂旭川荘理事長の挨拶に続き、作品を出展した、いんべ通園センターの山本克己さんが「作品が展示



紹介パネルの前で記念撮影



末光理事長の開会挨拶

されてうれしい。制作の励みになる」と挨拶されました。旭川荘からは5点の作品が展示され、1か月ごとに作品を入れ替えるよう計画しています。県庁にご用の際にはぜひ作品をご覧いただきたいと思えます。

旭川荘アートギャラリーは、開館3年目に入り、これまでに外部での作品展を含めると8千人を超える皆様に作品を鑑賞していただきました。今後、アート情報にご期待ください。

平川小学校 卒業式・閉校式

旭川学園では昭和63年から毎年夏休みに「平川家庭学校」(高梁市備中町平川)を実施し、牛の乳搾りやトウモロコシの収穫、ヤマメのつかみ取りなどの体験学習を続けています。また地元の平川小学校の生徒とはゲームや制作活動を通じて交流を深めてきました。

その平川小学校がこのたび140年の歴史に幕を閉じる

**「マイプランター」
を寄贈して
いただきました**

わかくさ学園では3月13日、みのある産業株式会社様より、新商品の家庭菜園用「マイプランター」をご寄贈いただきました。このマイプランターは、①人工培地「エクセル培地」で清潔! (土ではなく固形状の人工培地であり、手や設置場所を汚すことなく室内でも栽培できます) ②水やりが簡単! (液肥と底面吸水マットの構造

ことになり、3月20日に最後の卒業式と閉校式、お別れ会が実施されました。

卒業式では交流会でも顔なじみの3人の卒業生を地域の皆さんと一緒に送り出しました。旭川学園からも家庭学校に参加している利用者のメッセージや写真を飾った額を贈りました。その後に行われた閉校式では旭川荘の山村健専務理事が平川家庭学校の歴史と意義、平川の皆さんとの絆について紹介しました。

小学校は閉校となりましたが、今年も実施される家庭学

により、上部の野菜に適量の水分補給ができる仕組みになっています) ③省スペース! (コンパクト設計であり日照・温度条件を満たす場所であれば、どこにでも設置できます) の特徴があります。

ご寄贈当日に学園内中庭の屋外作業所で会社の担当者様によるミニ園芸教室が開かれ、使用方法の説明を利用者・職員にしていた



種まきの様子。大きくなあれ!

いただきました。後日、みんなでマイプランターに小松菜や水菜の種をまき、約2ヶ月後の収穫がととても待ち遠しく楽しみます。

当学園では、食育活動を通して「食」の大切さ等を楽しみながら学んでいます。「マイプランター」が加わったことで食育活動の幅が広がっています。



閉校式で挨拶する山村専務理事

校で、平川地区の子どもたちとの交流を続けていきたいと思

旭川荘 子どもまつり

今年で30回目を迎える旭川荘子どもまつりが4月27日、むすびの園で開催されました。

青空の下、トランペットのファンファーレで開幕。小さな子どもたちが鯉のぼりを揚げてくれた後は、関西高校吹奏楽部による聴いて観て楽しめるステージがありました。次に、保護者のギターにあわせて子どもたちが楽器で参加をしたり、元気なダンスや会場全体でのうらじや踊りなど、参加者みんなが笑顔になる出し物が続きました。遊びのコーナーでは、今年もかわいいバルーンアートや人気のエアートランポリンを始め、子どもたちが楽しめるものがたくさんありました。いつも多くのボランティアの方々にご協力をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。



あそびコーナーにて

つばさコンサート

3月14日、旭川敬老園地域交流ホールにて、旭川児童院、睦学園、南愛媛医療センター合同による、「第30回つばさコンサート」が、岡山後楽園ロータリークラブ後援により開催されました。



コンサート風景

コンサートは、利用者が生活の中の出来事や家族への思いなどを題材に詩を作り、同コンサート実行委に応募。審査を経て入選した詩に職員やボランティア(全日本エレクション指導者協会ヤマハジェット)が曲を付けて発表するものです。

今年も、たくさんの方の応募の中から6題の詩が入選しました。それぞれの思いにあった曲がつけられ、感動あり、躍動ありの心に残る楽しいコンサートとなりました。

車いすを寄贈していただきました

3月29日、岡山トヨタ自動車株式会社様から、フォルクスワーゲン西岡山の分社化にとりまなう社外貢献活動として、車いす3台を寄贈いただきました。愛育寮・デイサービスセンター敬老園で使わせていただくことになりました。



岡山トヨタ自動車株式会社様から車いすを寄贈

また、4月25日には株式会社三永様から今年も車いす3台を寄贈いただきました。社員の皆様が、プルタブ回収運動を通じて社会貢献を行っておられ、車いすに交換されたものと、企業で設立されたサン基金で購入されたものの3台です。グループホームよし川、わかば青年寮、旭川療育園で使わせていただくことになりました。それぞれのお心遣いに、心から感謝を申し上げます。



株式会社三永様から車いすを寄贈

旭川荘ごよみ

SCHEDULE CALENDAR

5月

- 8~13日 ふれあいキャンパス 竜ノ口寮
- 5/9~7/31日 旭川荘アートギャラリー常設展 くわのみどりの家
- 10日 清心中学校奉仕活動 ひらた旭川荘
- 11日 学院説明会(6/9にも実施) 旭川荘厚生専門学院
- 18日 開園記念行事 旭川敬老園
- 19日 家族交流会 竜ノ口寮
- 19日 春の旭川荘清掃活動 本部地区・平田地区
- 28日 旭川荘評議委員会・理事会
- 29日 天理教春の清掃奉仕活動 旭川敬老園

6月

- 4日 プール開き 旭川児童院
- 8日 ミュージックアカデミー創立5周年記念コンサート
- 8日 家族授業参観 みどり学園
- 10~14日 旭川荘写真作品展(川崎医科大学付属病院)
- 15日 ホタル祭 かわかみ療護園
望の丘ワークセンター
- 22日 オープンキャンパス 旭川荘厚生専門学院